

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	学校法人 愛知学院 楠元キャンパス
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県名古屋市千種区楠元町1-100
工場等の名称	学校法人 愛知学院 楠元キャンパス
工場等の所在地	愛知県名古屋市千種区楠元町1-100
業 種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	学校教育、研究機関
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公 表 期 間	令和4年5月23日 ～ 令和4年8月21日		
公 表 方 法	○	掲 示 閲 覧	（場 所） 施設部 施設設備課
		ホ ー ム ペ ー ジ	（HPアドレス）
		冊 子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-751-2561		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

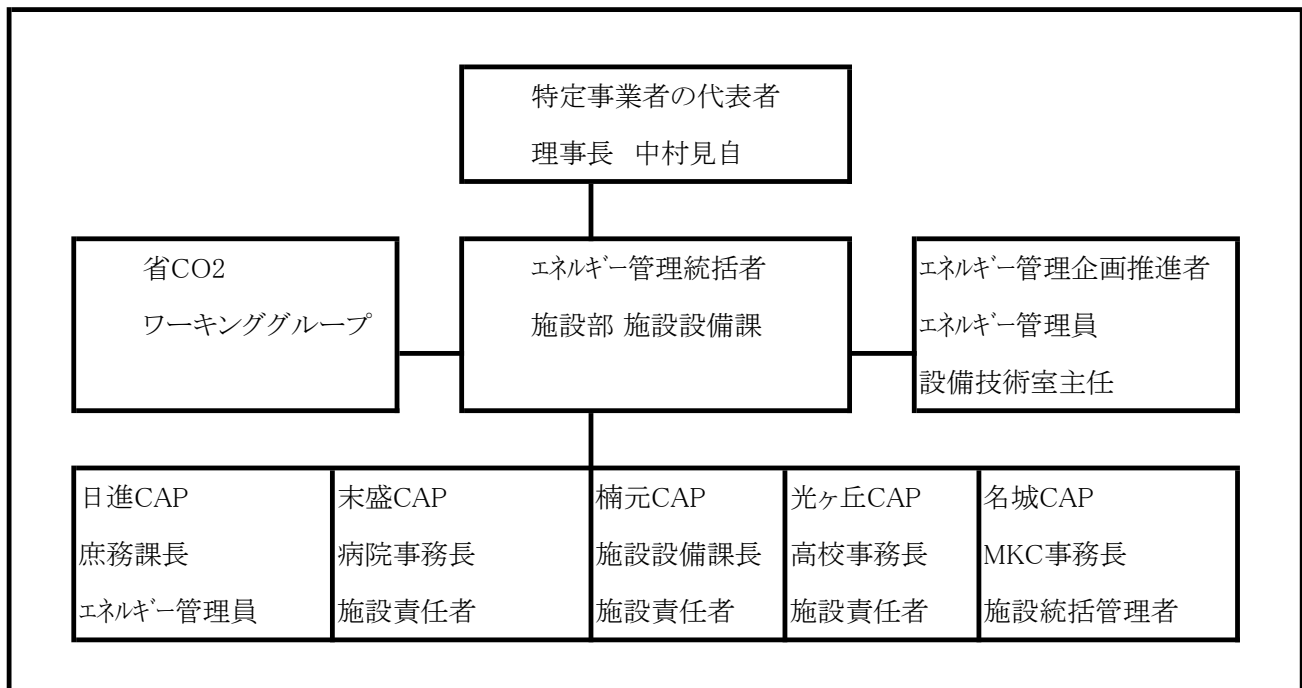
(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

・愛知学院 楠元キャンパスは地球温暖化対策の重要性を認識し、増加傾向にある事業活動に伴う温室効果ガスの搬出を各分野における取り組みにより減少傾向に

転換させると共にその取り組みを通じて、持続的発展が可能な社会に貢献します。

- ・エネルギー使用の合理化、改善を図ります。
- ・空調温度の適正な運用・管理を図ります。
- ・環境に配慮した自動車利用を推進します。
- ・廃棄物の減量化、リサイクルを推進します。
- ・学生、教職員に対する啓発活動を実施します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,340	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,340	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
温室効果ガス総排出量	2,181	t-CO ₂	2,617	t-CO ₂	2,340	t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）			▲ 20.0	%	▲ 7.3	%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
原単位あたりの排出量	0.0438	t-CO ₂ / m ²	0.05256	t-CO ₂ / m ²	0.04701	t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²	
削減率（対 基準年度）			▲ 20.0	%	▲ 7.3	%		%	
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²	
削減率（対 基準年度）						%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

基準年度からは7.3%の増加、目標（令和1年度基準）は達成しています。 コロナウイルスの影響によりリモート授業実施の為、学生の減少 部活動・イベント等の自粛による要因が大きいのと思われます。
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー、省資源行動の実践	基礎棟・薬学部棟・図書館棟など照明器具のLED化に更新する。	順次計画的に更新する。 年度予算工事にて計画する。	図書館棟1F・2F閲覧室照明をLED照明に変更。(328台) 外灯照明をLED照明に変更(13台)
省エネルギー、省資源行動の実践	エアコン(EHP・GHP)を従来品から更新する。	順次計画的に更新する。 年度予算工事にて計画する。	薬学部棟GHPエアコン更新 室外機13台
省エネルギー、省資源行動の実践	冷暖房温度の適正化、運転時間の短縮。 点検整備による効率の維持に努める。 照明回路の細分化、不要時の消灯。	暖房設定温度 17℃～22℃設定 冷房設定温度 25℃～30℃設定 夜間・休日の照明消灯。	空調設備設定温度はコロナ架で窓を開けての授業とうにより設定温度の変更依頼が増加した。
廃棄物の排出抑制	コピー用紙の利用効率化。 ペーパーレス化を進める。 リサイクル化を進める。	印刷は裏紙の使用。 分別回収	コピー時は裏紙を使用した。 回覧物などは出来るだけペーパーレス化に努めた。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 3 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 3 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

コロナウイルス架において使用しない教室を把握して、空調設備・照明設備をスケジュール設定にて運転した。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--